

和歌を英訳と比較する ー日本語、日本文化について考えようー

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 百人一首
- 3 教材名 百人一首
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>①単元の目標</p> <p>ア 古典を読んで、我が国の文化の特質について理解を深めること。 (関心・意欲・態度)</p> <p>イ 古典を読んで、我が国の文化の特質について理解を深めること。 (話す・聞く能力)</p> <p>ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。 (知識・理解)</p> <p>②単元の目標設定の理由</p> <p>・本校で古典Bを履修する生徒は国際コミュニケーション科の生徒のみである。商業科目と並んで英語の学習にも力を入れており、進路決定においてもこの二教科の成績が大きく関係してくる。そのためか、古典の学習に関してはどちらかというと消極的で受け身の生徒が多いと感じている。まずは古典に対する興味をもってもらうこと、苦手意識を植え付けないことを目標に日々授業を実践している。今回は、和歌という文字数の限られた作品の中で豊かな表現を可能にする日本語の特徴や、そもそも表現しなくても伝わるという日本人の考え方について、英語と比較することで考えさせたい。将来は英語を武器に世界で活躍したいという大きな志を持つ生徒も多いが、思考する際はやはり日本語である。英語の学習によって英語力を高めるだけでなく、日本人としての考え方や感性について自覚することも英語でコミュニケーションをとっていく上で大切なことなのではないかと考え、目標を設定した。</p> <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌の英訳を読み、教科書に収録されたとの和歌を訳したものかを考える。 ・英訳と和歌そのものを比較し、相違点を考える。 ・相違点から、日本語や日本人の考え方について、西洋（人）とも比較しながら考える。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず個人での活動の時間を確保する。その後、グループで考えを交流し、全体で共有する。 <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 30%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">関心・意欲・態度</td> <td> ① 和歌に興味をもち、自分なりの意見をもとうとしている。 ② 考えたことを他者と交流することで、自分の考えを深めようとしている。 </td> <td style="vertical-align: top;">観察（机間指導） 点検 （ワークシート）</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の和歌について思い出してみるよう助言する。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">話す・聞く能力</td> <td> ① 自分の考えを、根拠とともに話している。 ② 他者の意見をふまえ、自分の考えを深めている。 </td> <td style="vertical-align: top;">観察（机間指導） 点検 （ワークシート）</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・考える糸口となるヒントを示す。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。 </td> </tr> </tbody> </table>				評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	関心・意欲・態度	① 和歌に興味をもち、自分なりの意見をもとうとしている。 ② 考えたことを他者と交流することで、自分の考えを深めようとしている。	観察（机間指導） 点検 （ワークシート）	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の和歌について思い出してみるよう助言する。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。 	話す・聞く能力	① 自分の考えを、根拠とともに話している。 ② 他者の意見をふまえ、自分の考えを深めている。	観察（机間指導） 点検 （ワークシート）	<ul style="list-style-type: none"> ・考える糸口となるヒントを示す。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応												
関心・意欲・態度	① 和歌に興味をもち、自分なりの意見をもとうとしている。 ② 考えたことを他者と交流することで、自分の考えを深めようとしている。	観察（机間指導） 点検 （ワークシート）	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の和歌について思い出してみるよう助言する。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。 												
話す・聞く能力	① 自分の考えを、根拠とともに話している。 ② 他者の意見をふまえ、自分の考えを深めている。	観察（机間指導） 点検 （ワークシート）	<ul style="list-style-type: none"> ・考える糸口となるヒントを示す。 ・グループ活動に積極的に参加するよう促す。 												

	知識・理解	① 和歌の修辞法や重要語、文法について理解し、その知識を用いて内容を読み取っている。	観察（机間指導） 点検 （ワークシート）	・修辞法や文法について、再確認するよう助言する。また、他の生徒との教え合いを促す。
成果と課題	<p>学科の特性や生徒の興味関心に合わせた課題設定、交流する際の評価項目の工夫により、生徒が主体的に考え、さらにその考えを深めることができる授業を実践できた。英語を学ぶ上で日本語の大切さ、古典を学ぶ意義を伝えたいという明確な目標をもって授業を組み立てたのだが、「古典をおもしろいと思えた、日本語が好きになったし日本語を誇りに思う、日本と外国の文化の違いを理解した上で英語を学びたい」といった生徒の感想が多く見受けられ、今回の目標は達成できたのではないかと考えている。また、パワーポイントを使うことで、スムーズかつ効果的に資料を提示することができ、生徒がじっくりと考える時間も確保できた。最後にもう少し多くの生徒の意見を聞く時間を設けることができるとよかった。</p>			
留意点	<p>①個人で考える時間をしっかり確保する。 ②グループの人数は、生徒の実態や取組の状況に合わせて調整する。</p>			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	<p>○和歌の特徴や百人一首について確認する。</p> <p>○各作品について解釈、鑑賞する。</p>	<p>・和歌の特徴や百人一首について確認する。【ア】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入として基本的なことを押さえ、興味・関心をもたせる程度でよい。 <p>・教科書の各作品を音読する。【ア】</p> <p>・重要古語の意味、用法や修辞法について確認し、大意をつかむ。【ア、イ】</p> <p>・情景や心情がどのように表現されているかを確認し、作者の感動の中心を読み取る。【エ】</p>	<p>知っていることを積極的に発表している。【関】</p> <p>↓</p> <p>発表・取組の観察</p> <p>辞書等を使用しながら、現代語訳をしている。</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>中学や国語総合での学習、既習の作品の和歌について再確認するよう助言する。</p> <p>隣の生徒とペアで取り組ませる。</p> <p>↓</p> <p>正しく現代語訳ができているか確認する。</p>
2 ～ 4	<p>○各作品について解釈、鑑賞する。</p>	<p>・教科書の各作品を音読する。【ア】</p> <p>・重要古語の意味、用法や修辞法について確認し、大意をつかむ。【ア、イ】</p> <p>・情景や心情がどのように表現されているかを確認し、作者の感動の中心を読み取る。【エ】</p>	<p>辞書等を使用しながら、現代語訳をしている。</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>隣の生徒とペアで取り組ませる。</p> <p>↓</p> <p>正しく現代語訳ができているか確認する。</p>
5 本時	<p>○英訳と和歌を比較し、日本語の特徴や日本人の感性について考える。</p>	<p>・和歌の英訳を読んで、教科書のどの和歌を訳したものかを考える。【ア、言イ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの英単語を事前に示し、語句調べをさせておく。 ・根拠を示せるようにする。 <p>・英訳と和歌の相違点を指摘し、それをもとに日本語の特徴や日本人の考え方、価値観について考える。【オ、言イ】</p>	<p>根拠を示して自分の意見を発表することができる。</p> <p>積極的に意見交流をしている。</p> <p>【話・聞】</p> <p>↓</p> <p>発表・取組の観察 ワークシートの点検</p>	<p>個別にヒントを与える。</p> <p>他の生徒の発言を参考にするよう助言する。</p>

6 第5時の学習指導案

本時の位置	第5時間目（全5時間）		
本時の学習目標	<p>ア 和歌に関心をもち、自分なりの考えをもとうとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>イ 英訳と和歌との相違点から日本語の特徴や日本人の感性について考え、グループ学習を通して考えを深めることができる。（話す・聞く能力）</p>		
事前の準備	授業を進めるための資料やワークシートの作成。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の目標の確認	① 本時の目標を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を示し、授業の進め方を確認する。 ・ワークシートを配布する。
展開 40分	<p>□英訳を読み、どの和歌を訳したものかを考える。</p> <p>□日本語の特徴や日本人の感性について考える。</p>	<p>② 英訳を読んで、教科書に収録されたどの和歌を英訳したものかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>③ 全体で確認する。</p> <p>④ 英訳と和歌を比較し、相違点を指摘する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英訳についての解説動画を使う。 <p>目標 ア に対する評価規準と評価方法 [規準] 和歌の学習に興味をもって積極的に活動している。 [方法] 取組、記述の観察 [状況Cの生徒への手立て] 既習の和歌を思い出し、どのような修辭法が使われていたかを考えるよう助言する。</p>
	□グループ交流及び全体発表	<p>⑤ 相違点を見つけ、なぜそのような違いがあるのかを考える。</p> <p>⑥ 個人で考えたあと、グループで意見を交流し、発表について相互評価をする。</p> <p>⑦ 全体で発表し、意見を交流する。</p>	<p>目標 イ に対する評価規準と評価方法 [規準] ・英訳と和歌の相違点を見つけ自分なりの考えを記入し、発表している。 ・発表を聞いて評価ができる。 [方法] ・発言、記述の観察 [状況Cの生徒への手立て] ・和歌と英訳を比較し、どの言葉とどの言葉が対応しているかに着目するよう助言する。 ・意見と根拠に注目して他の生徒の意見を聞くよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの意見交流を通して、自分の考えが変化したか、深まったかを評価するよう全体に指導する。 ・最後に、西洋文芸と日本文芸を対比的に述べた評論文（『偶然を生きる思想』野内良三）の一節を紹介する。
まとめ 5分	□本時のまとめと単元の振り返りをする。	<p>⑧ ワークシートに単元の振り返りを記入する。</p> <p>⑨ ワークシートを提出。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語や日本人について考えることの重要性を確認する。 ・ワークシートを回収し、生徒の取組状況を把握する。

